



# 校長室だより

校長 菅原 定志

## 「自分の言葉」

11月も下旬となり、朝晩の寒さも大分厳しくなってきました。紅葉も見頃を終え、本格的な冬へと歩みが進んでいるような気がします。

保護者の皆様には、ご多用のところ教育相談（三者面談）にご来校いただき、ありがとうございました。学校生活の様子や進路に関することなどのお話ができたとおもいます。今後もより一層、学校と家庭が連携していければと考えています。

さて、11月24日（火）の総合的な学習の時間には、本校の防災学習アドバイザーをお願いしている東北大学災害科学国際研究所佐藤翔輔准教授にご来校いただき、生徒に直接指導していただきました。この日の学習は、12月11日（金）の授業参観で発表する防災学習の中間発表会であり、11グループの生徒の発表を一つ一つ聞いた後、よかった点、12月までに工夫したい点を分かりやすく説明していただきました。そして、最後に佐藤准教授から全校生徒に対して次のようなお話をいただきました。『内容的には、発表会本番でも大丈夫なものでした。本当に素晴らしいです。一つだけお願いがあります。とても難しいことですが、本番では原稿を見ないで「自分の言葉」で話してください。』佐藤准教授のこの話は、以前気仙沼高校の発表会でも聞いたことがありますし、その他の発表会などの場で中・高生が研究発表した後の講評でも聞いたことがある話でした。



以前、佐藤准教授に「自分の言葉」で話すことの大切さについて質問したことがあります。佐藤准教授は、ずいぶん前に初めて学会で自分の研究を発表していたときのことを話してくれました。その時は、パソコンを使いながらスクリーンに映し出されたものを、原稿を読みながら説明していたそうです。ある瞬間、原稿から目を離し会場を見たときに、はじめはたくさんいた聴衆が誰もいなくなっていたそうです。その時に、聴衆を見ながら、自分の言葉で話すことの重要性に気づかされ、その経験から中・高生にも話しているそうです。

今回の生徒たちの学習成果は、どの班も素晴らしいものであり、しっかりと聞き手に聞いてもらい伝えるためにも、原稿を読むのではなく、自分の言葉で話して欲しいということでした。

生徒たちにとって、将来どこかの場面で「自分の言葉」で話さなければならない場面が出てくるでしょう。面接もその一つです。質問に対してその時考え、「自分の言葉」で、相手の目を見て話すことが求められます。「自分の言葉」で話すことは、生きる力になるはずです。生徒の皆さんには、佐藤准教授から出された今回の宿題に、果敢に挑戦してもらいたいと思います。失敗は気にしないでください。大いに失敗してください。挑戦することで必ず得るものがあるはずですから……。